



蘆分船冬之部

不角編
元祿七年



蘆分船冬之部



重^{カサ}之^{カサ}下^{カサ}の^{カサ}上^{カサ}久^{カサ}の^{カサ}而^{カサ}後^{カサ}
 棒^{カサ}船^{カサ}つ^{カサ}き^{カサ}一^{カサ}馬^{カサ}を^{カサ}渡^{カサ}通^{カサ}
 渡^{カサ}せ^{カサ}し^{カサ}呼^{カサ}ぶ^{カサ}新^{カサ}阿^{カサ}堵^{カサ}古^{カサ}
 新^{カサ}ま^{カサ}の^{カサ}古^{カサ}の^{カサ}ま^{カサ}を^{カサ}通^{カサ}す^{カサ}
 月^{カサ}夜^{カサ}の^{カサ}祿^{カサ}し^{カサ}と^{カサ}し^{カサ}の^{カサ}後^{カサ}の^{カサ}也^{カサ}
 不^{カサ}角^{カサ}の^{カサ}身^{カサ}も^{カサ}杖^{カサ}の^{カサ}新^{カサ}の^{カサ}也^{カサ}
 不^{カサ}角^{カサ}

下縁墳ツカのまほりツカのまほり
津ツカ年ツカの山舟ツカを常灯ツカ
和ツカ王餘ツカ定ツカを沖ツカたのけツカ
濱親ツカをたのけツカの心ツカ
とさでツカ形ツカの御ツカ行ツカ御ツカ
をたのけツカの御ツカ行ツカ御ツカ
手ツカ色ツカのた月ツカを合ツカ判ツカの事ツカ
人目ツカの御ツカ行ツカ御ツカ
夕角

事ツカのまほりツカのまほり
利ツカ休ツカの女ツカを糸ツカの糸ツカ
虚ツカの糸ツカの糸ツカの糸ツカ
心ツカの糸ツカの糸ツカの糸ツカ
預ツカの糸ツカの糸ツカの糸ツカ
居ツカの糸ツカの糸ツカの糸ツカ
然ツカの糸ツカの糸ツカの糸ツカ
根ツカの糸ツカの糸ツカの糸ツカ
夕角

唐初の... 降... 色... 醫者の... 角
唐局も... 備... 針... 角
... 板... 角
... 角
... 角

業... 橋... 角
山門... 角
物の... 角
... 角
... 角

其... 好也... 御小

松琴

陽丹... 坐... 御小

不角

之... 御小

文士

之... 御小

松琴

乙... 御小

不角

之... 御小

文士

子... 御小

之... 御小

之... 御小

之... 御小

之... 御小

之... 御小

之... 御小

之... 御小

眩暈メヒ入直ナラ室シカラ積ツク 文士

乙切ハ... 御小 不角

之... 御小 松琴

之... 御小 文士

陽丹... 御小 不角

其... 御小 松琴

生羽集ナニヤケく男オトコのハ抱ア好コトの 文士

己ミのハ新ア下シ墨スしハ居イるハ 松琴

身ミのハ心ココロをシてハ持テ守ウりハ 不角

緋ヒのハ衣イのハ毒ドクのハ集ツ 文士

初ハジメのハ心ココロをシてハ 松琴

いつイツもモあアのハ出デ居イるハ少コト部ブ 不角

了シるハとト飛トくハのハ玉タマ 文士

半ハのハ後ノチはハ多タくハあアるハ 松琴

古コのハ立タてテぬルのハ網ヒラをシてハ 不角

少コトのハ名ナをシてハ 文士

唯タにニ中ナカ度タクでハ 松琴

病ヤをシてハ入イれテ 不角

再マタ集ツ物モノはハ 文士

高タカくハ 松琴

千早振チハヤビやハ 不角

只ただのハ 文士

行代もろく教流コシキの屋敷 打登
 受陀羅コシキの継コシキの 後 方
 ありて意コシキも教系もろく外 文士
 おくも色コシキの 入敷 打登
カガ誰教の同コシキのコシキの 文士
 簾コシキの 取媚ナニ 文士

時雨

文の可コシキの 調和
 村の我コシキの 擧句
 筆コシキの 野睡
 袖コシキの 犀角
 片コシキの日向コシキの 鳳角
 海コシキの 虎角

押上り言は平印の幅 鳳角

清き山嵐をくさるる音 誥艱

移るる音をくさるる音 映水

一 大燧 自然の音

背くらりくはしるる音 玄泉

親しみの大燧を民の徳とく 何云

凡くさるる音 竜角

鴨を木よみ大燧をくさるる音 行徳

鰻

草人の命を安く鏡の本 竹仙

鏡の音をくさるる音 高田 更也

紙袍

心よき紙袍の音 釋 卜也

帯の音をくさるる音 袖角

臆

用の中り音をくさるる音 業折 不所

本枯也枯句然が皮の二皮の 種

用一 突くつら柳の柳 和葛

一 冬枯 并 落葉

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 棚倉 里夕

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 高田佐 汐泡

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 活鵬

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 櫻角

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 柴木

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 辰雞

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 虎角

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 包角

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 露貫

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 流也

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 康瓶

冬枯 一 出きこつら 隣一 調柳 嵐

霜

ほろろとく

夢入母のらりし入る住 犀角

現母のほろろとく 嘯水

初雪のほろろとく 玉角

霜のほろろとく 調柳

氷

氷のほろろとく 結藤

氷のほろろとく 丹夕

氷のほろろとく 柳線

氷柱

氷柱のほろろとく 虎角

氷柱のほろろとく 野光

追鳥

追鳥のほろろとく 文車

追鳥のほろろとく 白蟻

追鳥のほろろとく 流如

袴着

袴着のしるしをわきまに

寒念佛

寒念佛のしるしをわきまに

千鳥

千鳥のしるしをわきまに

千鳥のしるしをわきまに

千鳥のしるしをわきまに

袴着

袴着

桐倉

寒色一のしるしをわきまに

桐倉のしるしをわきまに

寒梅

寒梅のしるしをわきまに

鑽祭

鑽祭のしるしをわきまに

煤掃

煤掃のしるしをわきまに

袴着

袴着

奥及長沼
少計

春之部

松月堂

不角

天ノ父^ト地^ノ母^ト

未^チ未^チ未^チ

~~~~~

甘露海

驕<sup>ア</sup>

親<sup>ニ</sup>草

初<sup>ノ</sup>夜<sup>ノ</sup>

~~~~~

田^ノノ^ノノ

~~~~~

柳

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



院主常住石蔵又此を  
有りてせしむ望まらん

ふ業入野下禱の室服

追悼

人同ハ傀儡のしく

とツの物ハ糸を以て操パツク

紙ナガシ写切して字の筆跡ナガシをみる

花

母の心は海に似たり

水は流れても母の心は

羊の心は春の草の如し

櫻

増上寺人壽一見

上上寺

わの園に花はあはれ

花はあはれ人あはれ

後

古分



後高へ入るるが如く

トモ

今ついでに入らば入様

様下也と申すは

今も用て申すは

可く申すは

今ついでに入らば

一本路通動進帳より

御書より申すは

トモ

今ついでに入らば

御書の御書より

今も用て申すは

トモ



五月五日午時

午時

五月五日午時

五月五日午時

夏

時

五月五日午時

所

五月五日午時

雨

五月五日午時

端

午

五月五日午時

五月五日午時



たぐ上り今も

りてを候別とじりやう年

張氏吞昔 今も梁武帝

手毎一箇産しりやん中

涼

義の心入るはまら

秋涼

長下り行来り凡の味

行肌くろく残しり候也

秋之部

初秋を候しり候也

初とけり候しり候也

セツ

里谷の物に候しり候也

銀行の物に候しり候也



胸合のとて

とて

とて

華

卯辰のとて

暮月

とて

暮月

とて

林言

とて

とて

とて

とて

とて

とて

月







冬之部

初言一真いー

言ふに言ふに言ふに

と云ふは言ふに言ふに

言ふに言ふに言ふに

言ふに言ふに言ふに

言ふに言ふに言ふに

言ふに言ふに言ふに

不動之賛

外ニ念怒相化

内心慈悲惠深

句いふを尖<sup>トガ</sup>りて言ふに

茶を

茶の言ふ句い

言ふに言ふに言ふに

言ふに言ふに言ふに

言ふに言ふに言ふに

茶分各

茶



初平...

盧...

大尾

一之滴源干大和搜其葦牙根得

玉句尚愚句艾拋瓦於崑崙預先地

更難波葭葦年積一艘芦分船渡守

成焉

允祿七甲戌林鐘下旬

不角自跋





